

2018 年度本会員活動方針

～原点回帰、浩志会愛～

代表幹事 厚生労働省 浅沼 一成

〇はじめに

平成最後（2018 年度）の浩志会本会員代表幹事を仰せつかりました浅沼一成です。

2009 年度に浩志会に入会して以来、研究会員活動、本会員活動、各種幹事活動、さらにはアフター活動などを通じて、たくさんの方々と交流を深め、楽しく充実した時間を浩志会活動で過ごすことができました。とある浩志会の会合では、つい図に乗ってしまい、「趣味は浩志会」と発言してしまったこともありました。

とはいえ、周囲を見渡し、そろそろグループ活動を卒業しようかと悩んでいたところ、代表幹事就任の要請を受け、「これはまさに天命」と悟り、即決でお引き受けいたしました。

私の人生を豊かにしてくれた浩志会から受けたご恩を少しでも返せるよう、副代表幹事の高橋修さん（住友金属鉱山）、宮崎香織さん（法務省）、児玉涼子さん（リコー）、そして幹事団の皆さんとともに、誠心誠意、本会員活動を支えてまいります。

どうぞよろしく願いいたします。

〇活動方針について

さて、2018 年 8 月の夏季全体研修会において、板東久美子理事長・濱口治孝専務理事から「「2050 年のありたい姿」に向けて～会員の皆さんへの呼びかけ」が示されました。本会報でも掲載されていますが、「人口 1 億人以下となる少子高齢社会」、「政官のあり方」、「世界のパワーバランス」の 3 項目を柱とした「2050 年のわが国のありたい姿に向けた中長期課題」を念頭に、この呼び掛けに基づいて本年度は活動していくことをお願いしたいとのことでした。

確かにこの 3 項目は、今後のわが国の将来を考えるために重要なテーマですが、諸活動の推進という観点では、平成 29 年度本会員活動方針において、前代表幹事の横田美佳さん（農林水産省）が示された「相互理解、相互研鑽、浩志会の基本に立ち返る」や「未来について考える」、「本音を議論する」の延長線上にありますし、それ以前の活動方針でも、決して大きな方向転換ではありません。

とは言え、新しい元号を迎えるべくこの時期に、板東理事長・濱口専務理事からあえてこのような呼びかけが示されたことは、浩志会にとって非常に大きな意味を持つのではないかと思います。

もう少し言えば、研究会員活動の活発さと比較し、本会員活動が見劣りする、マンネリ化していると受け取られている方が少なからずいるとのこと。グループ毎の月活動の出席率、総会や夏季全体研修会、合同月例会の参加者数の年度推移など、必ずしも芳しいものばかりではないというデータもあります。

官庁や会社で重職を務め、家族とのふれあいや趣味などもこなし、何かと多忙な世代の本会員の皆さんであることは承知していますし、かつては「忙しい人たちが3割も集まれば良し」とされたおおらかさが浩志会にはありました。事実、毎年グループ活動に参加し、懇親会はもとより、様々な施設を見学させていただいたり、皇居を皆さんで走ったりするなど、充実した企画に出席してきた私は、そのような指摘がされるほど本会員活動が低迷しているとは全く思ってはいませんでした。

しかしながら、グループ活動に一切参加したことがない本会員がいることはまだ理解できても、出欠の連絡すら幹事に返答がないという本会員が少なからずいるという事実を耳にし、浩志会大好き人間の私としては、にわかにその事実を信じ難くも、本会員活動のエネルギーがまさに喪失されつつある状況と認識いたしました。

「浩（ひろ）い、浩然の」「志（こころざし）」を持った会員が、本音で議論し行動することで、それぞれの立場で日本や世界の将来を切り拓いていくことが、上村健太郎氏が発案された浩志会の原点。この原点を具現化するためには、まずはグループ活動や総会、夏季全体研修会、サロンなどに出席する、お酒を傾けながら他の会員と懇親してみる、テーマについて熱く議論を交わすなど、浩志会活動に積極的に参加していくことが重要です。

「浩志会の神髄と有難さに触れるには、ともかく参加しなければならない」と浩志会元専務理事の吉田進治さんは語られていましたが、本会員数が1100名を超えても本会員活動に参加する方々が限られている現状を踏まえると、残念ながら、この神髄と有難さが会員全体に正しく伝わり切れていない。即ち、浩志会に対する「愛着」が全体として薄らいでいる。それが、情緒的ながらも浩志会にとって危機的な状況ではないかと、私は「診断」しています。

そこで、本年度の活動方針は、「原点回帰、浩志会愛」とすることといたしました。

せっかくのご縁があって入会した浩志会だからこそ、浩志会の原点に帰りながら、浩志会に愛着を持って頂きたい、もっと好きになってもらいたい。その究極が「浩志会愛」なのです。

この活動方針に基づく具体的な活動の柱は次の4本です。

・イマドキの本会員が参加しやすいようなグループ活動に取り組もう！

近年、お酒が苦手な方や晩婚化等による子育て世代の方も本会員として増えていますし、今回の「呼びかけ」を踏まえた活動も求められているところです。懇親会（飲み会）や見学に偏らず、テーマを決めて議論する集いの場やご家庭に考慮した時間設定など、グループ活動の企画の弾力化、多様化に取り組んでいただくようお願いいたします。

なお、新たな試みとして、グループ活動についての具体的な相談や悩みなどに応えるために、各グループの活動の相談役として、副代表幹事3名が1人4グループを担当していた

だきます。

・研究会員からの本会員1年生を本会員活動に取り込もう！

研究会員卒業一年目（2016年度入会者）の本会員が、本会員グループ活動にソフトランディングできるよう、各グループの先輩本会員の方々には、機会ごとにお誘いや声がけ、時には個別に親睦を深める会合などのご配慮をぜひともお願いいたします。「浩志会は研究会員活動で燃え尽きたぜ」などと本会員1年生に言わせないように。お楽しみはこれからです！

・グループ会員を卒業していても、浩志会活動を取り返そう！

グループ会員を卒業した本会員の方々が、日常に追われ浩志会活動から足が遠のいてしまうことは、決して珍しいことではありません。しかし、グループに所属しなくても、総会、夏季全体研修会、サロンなど、参加できる本会員活動は多数あります。せっかく入会している浩志会。少なくとも年に1度はこうした活動に参加していただくよう、ぜひともお願いいたします。

・生命あつての人生百年、浩志会活動で青春を取り戻そう！

平成という時代を振り返れば、阪神淡路大震災や東日本大震災など、大きな災害の連続でした。今年も現時点で、大阪北部地震、7月豪雨災害、北海道胆振東部地震などが発生し、数多くの方々が犠牲になられています。

人生百年時代を迎え、公私ともに将来について色々と考えることも大事ですが、誰しも突然に生命が絶たれることもあり得ます。儚い生命だからこそ、今日一日を大切に精一杯、生きがいを持って真剣に過ごすことが重要だと、私は感じています。

その点、浩志会では、本音で語り、真剣に取り込むことができる活動を、志のある皆さんとともに作り上げていくことができます。浩志会活動の中で、一人一人が役割を果たすことにより、第二、第三の「青春（のような何かの生きがい）」を謳歌していただけるなら、心身の健康も維持でき、人生も豊かになるのではないのでしょうか。

この 4本柱（4つのトリ） を軸に、この一年、「原点回帰、浩志会愛」を意識しながら、本会員活動に取り組んでまいります。

○最後に

時に、NHK大河ドラマは「西郷どん」、明治維新の立役者、西郷さん（西郷隆盛氏）が主役です。西郷さんの言葉といえば、「敬天愛人」。人を愛し、浩志会を愛し、日本を愛し、世界を愛し、これからの日本をどうしたらよいのか。

AI、ICT、少子高齢社会、地方創生、働き方改革、異常気象と多発する自然災害、混沌化する世界経済、アジアにおける軍事的緊張感など、時代が一変する課題が山積のわが国はまさに維新前夜。

ぜひ、浩志会本会員の皆さんと熱く語り、「全員参加」で「頼まれたらことわらない」を

モットーに、「原点回帰」を意識して「浩志会愛」を深め、精進していきましょう！

1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

(平成3年入省(平成3年医師国試) 平成21年入会 大臣官房厚生科学課長)

注1：鹿児島県勤務経験のある私は、西郷さんは呼び捨て御法度、西郷さんと呼べと教育されております。

注2：今回の活動方針は「原点回帰、ドラゴンズ愛」のパクリではありません。念のため。